

桜の聖母学院中学校・高等学校 平成29年度 シラバス

履修年次	科・コース	教科名	科目名	単位数	履修形態
高2	英語科・普通科	公民	倫理	2	必修

教科書	清水書院「新倫理」新訂版
その他の教材	資料集「最新図説・倫理」(浜島書店) 用語問題集「一問一答倫理」(山川出版)

目標	<p>○古今東西の哲学者や宗教家などの思想を、広く浅く紹介することにより、知的好奇心を養い、加えて一般教養として知っておくべき考え方や名言をわかりやすく紹介する。</p> <p>○センター入試の「倫理」および「倫理、政治・経済」を受験する生徒に、課外でカバーする項目以外については、できる限り授業の中で理解させるよう努める。</p>
学習のねらい	<p>授業の進め方としては、プリントを使わず黒板に板書する内容を写させるというオーソドックスなやり方をとるが、ただ書かれたことだけを写せばいいのではなく、言葉で説明する内容もできる限りメモするといった受け方を求めている。これは、生徒が来年度に大学などの上級学校に進んだ際に、必ず役立つ技能になると思われるからである。また予習は基本的に求めず、授業に集中してその場で理解・納得するような受け方を求めている。</p>
定期考査	1学期中間・期末、2学期中間・期末、3学期期末の計5回。
評価の観点 および 評価の方法	<p>学期ごとの評点は、定期テストが8割程度、提出物や長期休暇中の課題などが2割程度。学年評点は、(1学期評点+2学期評点+3学期評点)÷3。</p>
履修上の注意	<p>学習のねらいにあるようなノートを取り方を各自がこころがける。また年間授業予定表を配布するので、ノートの表紙の裏に必ず貼っておく。さらにその右のページには、大きく「私は(人間は)何のために生きているのか」「私は(人間は)どう生きればいいのか」という、二つの問いを大きく書いておく。これは年間を通してのこの授業の大テーマであり、この授業は結局この問いに古今東西の思想家がどのような答えを見出したのかということ、あるいはそれを見出す過程で気付いた真理や名言などを、紹介していく授業である。それゆえ受講の前にはこれらの問いに対して何も思い浮かばなくても、1年間学習し終えた時点で再びこの問いを見れば、何かしら答えられるようになっているはずであり、それがこの授業の実りである。</p>

桜の聖母学院中学校・高等学校 平成29年度 年間指導計画

期	月	学習項目・学習内容	テストと評価
1 学期	4 月	古代ギリシャの思想 ① 哲学の誕生 ② ソクラテス	
	5 月	③ プラトン ④ アリストテレス ⑤ ヘレニズムの思想	中間試験
	6 月	キリスト教の思想 ① 旧約聖書（ユダヤ教）の思想 ② イエスの教え ③ キリスト教の発展	期末試験
	7 月	仏教の思想 ① バラモン教の思想	
夏季 休業		自分の家の宗旨について調べ、レポートにまとめる	
2 学期	9 月	② 仏陀の思想 ③ 仏教の展開	
	10 月	日本仏教の発展 ① 仏教の伝来平安仏教（最澄、空海） ② 鎌倉仏教（法然、親鸞、道元、日蓮）	中間試験
	11 月	古代中国の思想 ① 儒家（孔子、孟子、荀子） ② 道家（老子、荘子） イスラム教の思想	期末試験
	12 月	近代の思想 ① ルネサンス ② 宗教改革	
冬季 休業			
3 学期	1 月	③ 経験論と合理論（ベーコン、デカルト） ④ モラリスト（モンテーニュ、パスカル）	
	2 月	⑤ 社会契約説（ホッブズ、ロック、ルソー） ⑥ ドイツ理想主義（カント、ヘーゲル）	
	3 月	現代における思想的課題の数々	期末試験
春季 休業			